

山岳友の会会報

2017年11月 第27号



第32回出羽三山現地研修会（撮影：荻野秀夫）

もくじ

2017上高地乗鞍キッズキャンプ

	報告1	小林 久雄	2
	報告2	奥原 仁作	2
第32回出羽三山現地研修会	報告1	出澤 三五子	3
第33回西糸屋現地研修会	報告	小林 久雄	5
徳本峠の道普請	報告	小林 久雄	5
事務局よりお知らせ			6

2017 上高地乗鞍キッズキャンプ報告1 『キャンプファイヤー “感動のコーラス” 』



2017 年友の会のキッズ・キャンプは心配された天候にも恵まれて楽しく出来ました。

上高地内の散策後に乗鞍ステーションに移動して、夕食の BBQ 準備や「キャンプファイヤー」にナイトハイクで盛り上がりました。特に「キャンプファイヤー」では、合唱を学ぶ女子3名のコーラスに感動しまし

た。ハーモニーの美しさや3人の息の合った歌声はここに沁み、とても素敵でした。

なかなか経験できないナイトハイクや翌日の乗鞍富士見岳登山も楽しんで、少しだけ思い出づくりの出来た2日間でした。

参加協力いただいた皆さんに「ありがとう」の一言です。



小林 久雄

2017 上高地乗鞍キッズキャンプ報告2 『 どうするキッズキャンプ 』

2011 年 3 月発災、未曾有で未だ先が見えない原発災害から 6 年。

当時誰が何をするか、の規範もなく、指針もなかったその年の夏、鈴木先生の発意で、出来たばかりの「信大山岳友の会」が主催し、原発避難区域に指定されていた福島県飯館村の子どもたちを招待し、上高地小梨平でキャンプを張ったのがキッズキャンプの始まりです。



2011 年子どもキャンプの様子

ちょっと振り返りますと、その日は天気も悪く、驟雨もありました。飯館の子どもたちは雨が降ってくると、濡れてはいけないと急いで雨宿り。また、ササなどの植物にも触れてはいけなかったということでした。

私たちは子どもたちに、「ここ(上高地)は安全だよ。思いっきり雨に濡れていいよ、植物にも触れていいよ、川で遊んでいいよ」と伝え、一緒に遊びました。

その時の子どもたちの歓声、そして笑顔は今でも思い出します。



雨の中、架設シートを張り、なんというか一種の使命感を持っての被災地の子どもたちとのふれ合いだったのかなと振り返っています。

あれから 6 年、試行錯誤を繰り返しながら、上高地から乗鞍とステーションを替えながら、よくぞやってこれたなという感があります。

今年のキッズキャンプ、総じてみればよくできたと思います。子どももまとまっており(最近はいわゆるいい子供たちが多くなって、手を煩わすことが少なくなってきたのかな)友達関係での問題や、運営上での問題はありませんでした。

ここではこれ以上個々のことは申しませんが、スタッフの尽力により初期の目的は達成できたと思っています。運営スタッフの各位には本当に頭が下がります。特に女性スタッフ

の存在なくしてこの企画は成り立ちません。

さて、私自身も当初からこの企画運営に関わってきましたが、始まったのが 61 歳、スタッフみんながその前後の年頃だった、と思います。それが今ではほとんどが高齢者の域にいるわけですよ。しかも相手をするのはいつも同じ小学生となると、おのずから「ああしんどいな」となっても仕方ないと思うのです。

当たり前ですが、子どもさんの相手は本当に疲れます。乗車から下車するまで、気は許せないのです。

関わるスタッフが高齢化する中で、子供たちの健全育成に少しだけかもしれないが寄与してきた(自負はしています)キッズキャンプ。どうするのか、会員各位のご意見をいただければと思います。



2011 年河童橋にて

奥原仁作

第 32 回現地研修会報告1 「東北の霊峰・出羽三山を巡る旅」

平成 29 年 8 月 28 日(月)～30 日(水)2 泊 3 日 18 名参加



昨年友の会に入会し、初めての登山参加です。とても楽しみにしていました。

1 日目 28 日曇り 羽黒山神社を参拝。

出羽三山神社入り口の鳥居をくぐるとすぐに随神門、これより先はご神域となっている。坂を下ると祓川で、ここにかかる神橋や右手に須賀の滝を見ながら進むと左手に樹齢推定千年以上の爺スギ国天然記念物根周り 10.5 ㍍がある。付近には婆スギがあったが明治 35 年に暴風に倒れると記されている。そして奥には国宝羽黒山五重塔高さ 29.4 ㍍素木造りは何ともいえない姿、複雑に組み重なった不思議な構造でずっしりと大きさを感じた。

いよいよ一、二、三の坂へと進む。2446 段の石段から始まり山頂までは約 1.7 ㍍あり江戸時代に作られたものできまりよく並んでいる。両端には樹齢 300 年～500 年といわれる杉並木が続き神秘的な空間を進む。二の坂には茶屋があり先頭に行く「せっかち組」が休んでいた。横目で見ながら先の見えない石段を進む、しばらくすると茶屋に居たせっかち組に抜かれてしまった。やっぱり凄い脚力の持ち主たちだ。一番後ろからゆっくり追いかけて行く。



三の坂はまだ先が見えないが、息も切れ汗もダラダラ。石段には誰かが落とした汗が所々に落ちている。苦しいのは私だけではないと言いつつ聞かせながら頑張る。

1 時間 15 分位かかりようやく山頂羽黒山神社に到着、三神合祭殿の屋根は茅葺で厚さは 2.1 ㍍もある。ふき替えたばかりとても綺麗で見事でした。参拝を済ませバスに乗り込んだ。宿に向かう途中では修行中の山伏 50 人ほどを見ることができた。さすが修験道の山です

ね。宿泊は月山志津温泉 秘湯を守る会員「まいづるや」では教授の後輩の方より頂いた地ビール「月山」で乾杯、とても飲みやすく美味しいビールでした。料理も美味しくいただき温泉も気持ち良かったです。

2日目 29日 曇りのち雨強風のち晴れ 月山神社・湯殿神社を参拝。

朝から北朝鮮のミサイル事件。東北も危険とのニュース。なぜ今日で今？ありえない！！テレビから目が離せない不安な時間、しばらくすると北海道上空を通過し太平洋上に落下した。まずは一安心。朝食を済ませ月山へと向かった。リフトからは遠くの山肌にニッコウキスゲが一面に咲いていた。途中姥ヶ岳組と近道組と分かれ牛首で待ち合わせた。たくさんの花の写真を撮りながら登って行くと風が強くなりはじめガスも出てきた。視界が悪くなり風も強風、山頂近くでは何度か飛ばされそうになった。ポールで体を支えながらやっと月山頂上に着いた。



月山神社本宮では紙人形で全身を清めお手洗池に流し、神主よりお祓いを受け参拝をさせて頂いた。そして「清身守」を買い山頂小屋へ。宿まいづるやで作って頂いたおにぎりを食べていると雨が降り出し強風もすごくなる。カッパを着て下山準備をして外に出ると、視界も悪かったので慎重に足を運んだ。急なハシゴや水の流れのある登山道もかなりの距離があり滑りやすかった。いつの間にか雨風がやんでいたのも、カッパを脱ぎ湯殿神社へと進んだ。約6時間、やっと着いた。本殿や社殿がない御神体はお湯の湧き出る赤色の巨大岩になる。裸足になり紙人形で全身を清めイケメン神主さんにお祓いして頂き、少し熱めのお湯が出ている赤色の巨岩に上り参拝し、足湯に入り神社の外へ出た。疲れた足がポカポカになり気持ち良かった。



その後バスに乗り込み宿へ。湯野浜温泉「龍の湯」では相澤さんが参加、差し入れのお酒も美味しく頂きました。皆さんは今まで行った宿の中で一番いい宿と言っていました。料理も温泉も最高でした。朝食バイキングは沢山の品数でとても満足。

3日目 30日最終日 晴れ

昨年も見学した鶴岡市立加茂水族館へ。私は初めてのクラゲ水族館です。クラゲがゆらゆらと泳ぐ姿は何ともいえない。クラゲドリームシアターは大きな水槽で直径5m。ブルーの光の中に白いミズクラゲがフワフワと泳ぐ姿はとても素敵で癒されました。何時間でも見ていられる。平日でしたがお客様が沢山入っていました。そして復路へと。



パンフレットには江戸時代に広がった、羽黒山 現在・月山 過去・湯殿山 未来を巡る「生まれかわりの旅」とある。今回、生まれかわりを感じている時間が無かった。機会があっ

たら晴れの日にゆっくりと行きたいと思います。

バスの中では美味しいお酒を沢山頂いた。

とても楽しく勉強になった研修会でした。皆様本当に有難うございました。

次回の研修も楽しみにしています。これからもよろしくお願いします。

出澤 三五子

「焼岳中尾峠を巡り上高地・焼岳を学ぶ」～第33回現地研修会に参加して～

初秋の上高地焼岳登山口に16名が集合し、森の中、焼岳を目指した。

心配された天候は雨もあがり秋晴れを期待させる。ハル榆や栃の大木の間を進むと土石流対策の「スリット化ダム」を見ることが出来た。やがて峠の橋を渡り上堀沢沿いに登ると森の木々も変わる。

大木が枯れて若木が育つ「根上がり」の説明を聴く内に梯子が現れて溶岩壁も見えてきた。

慎重に梯子をいくつか越えて、大正池を眼下に急な登りを越すと森林限界に、ササや桔梗の花を目にし九十九折りを登るとようやく焼岳小屋に到着。ガンバって見晴丘まで登って旧中尾

峠・旧焼岳小屋後を見ながら岩陰で風を避けて昼食。岩のあちらこちらに噴火の穴が見られて暖かい風を感じる。参加いただいた大見先生から観測機器の話をお聞きしながら、希望者が山頂を目指し身軽な装備でピストン。梯子場に注意しながら無事に下山した。



4時半には「西糸谷別館」に参加の26名全員が集合し、W 奥原講演会。「登山道・道」のお話を仁作さんから、「西糸屋の歩み」を宰さんからそれぞれお聞きし恒例の夕餉の宴。9時から、晴れた星空を見上げて「河童橋の散策」などもしながらの楽しい研修会でした。

小林 久雄



2017.10.28-29 「徳本峠の道普請」に参加して

季節外れの台風22号に刺激された秋雨前線の影響で雨の作業となりましたが、奥原さんと滝沢さんとで友の会代表して「サワグルミ橋 橋脚事前準備作業」に参加しました。

県からの補助を受けて10月13日に資材のヘリ荷揚げがされた河原に早朝出発して駆け付けました。雨の降りだす前に出来る限りの作業を進めようと頑張りました。

資材の梱包を解き、橋脚の蛇籠を組み立て石運び....お昼前に出来る限り3個の蛇籠設置。

4個目は数個の石を運び込んで徳本峠小屋に雨の中を急



ぎました。4時からの「徳本フォーラム」山と渓谷編集長 山本聡氏の講演会に間に合わず強硬スケジュール。雨の峠道を事前準備作業の疲れのまま頑張って登りました。



翌朝、一晩中降り続いた雨の中を最上部の橋を外して、「サワグルミ橋」の建設をしました。

久々に充実した作業でしたが、見事に橋は完成し安全な登山道になりました。

小林 久雄

事務局よりお知らせ

来年(2018年)度の礼文・利尻山トレッキングと海の味覚ツアーの案内

2018年度の友の会現地研修会として、次のように「礼文・利尻山トレッキングと海の味覚ツアー」を開催します。初夏の花がとてもきれいな時期です。礼文・利尻でガイドを長年やっている笹木会員がガイドして下さいます。まだ先の話ですが、現地での宿舎やバスの手配の都合がありますので、参加の意思の確認をお願いします。

◎日程:

- ・6月8日(金)6:20 稚内港集合ー礼文島内トレッキングー礼文島に宿泊
- ・6月9日(土)午前: 礼文島内トレッキングー午後: 利尻島一周またはポン山・姫沼トレッキングー利尻島に宿泊
- ・6月10日(日) 利尻島ー稚内港解散

稚内までの往復は、各種考えられますので参加される皆様と調整します。

今の段階で、参加したいと考えている方は、事務局まで、FAXまたは電子メールでお知らせください 12月2日(土)まで

信州大学山岳友の会会報 第27号
発行日: 2017年11月2日
発行: 信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
TEL: 0263-37-3332
FAX: 0263-37-2438
E-mail: suims@shinshu-u.ac.jp